令和５年度　第４回（第10期第３回）国分寺市環境審議会議事要約

日　　時　：　令和５年10月30日（月）　午前10時～正午
会　　場　：　市役所　書庫棟会議室

○会議次第
　１．開会

　２．議事
　（１）（仮称）国分寺市地球温暖化防止行動計画（市域版）の検討について

　３．事務連絡

　４．閉会

出席委員　：中西由美子会長，大野政智委員，大友美輪委員，益子美賀委員，和田淳委員，竹内大悟委員，野澤淳史委員，六車貴美子委員，荒井雄一委員，巻田清委員，三浦貞夫委員
出席委員　：　11人
欠席委員　：　１人
傍 聴 者　：　０人
事 務 局　：　まちづくり部まちづくり計画課４人（部長，係長１人，担当２人）

配布資料
　資料１（仮称）国分寺市地球温暖化防止行動計画（市域版）（素案）
　令和５年度第３回国分寺市環境審議会議事要約

１．開会

●まちづくり部長あいさつ

まちづくり部長よりあいさつを行った。

２．議事

●配布資料の確認

事務局より配布資料の確認を行った。

●（仮称）国分寺市地球温暖化防止行動計画（市域版）の検討について

事 務 局より資料１を説明

六車委員：2100年未来の天気予報（５頁）について，ウェブ検索したところ，引用元の動画は，著作権・肖像権等の使用期限が満了したため公開を終了したと記載されていた。事務局は把握しているか。

事 務 局：動画公開が終了したことは承知している。2100年未来の天気予報に関する環境省の報道発表資料はウェブで確認が可能なため，そちらを引用して掲載している。前回審議会では，このまま地球温暖化が進むとどうなるのか，市民に危機感が伝わるような内容にした方がよいとの意見を受けて，コラムとして掲載しているという経緯がある。

中西会長：出典を検索した際に引用元が見られないのは問題であるため，正確に報道発表を引用している旨を出典に明記した方がよいだろう。

大野副会長：東京都の気候の将来予測（５頁）について，年降水量の減少とあるが，数値は増加している。どちらが正しいのか。

事 務 局：出典元を再確認する。

中西会長：第１章のタイトルである「地球温暖化を巡る国内外の動向」に関して，「めぐる」はひらがな表記の方がよいのではないか。漢字表記は馴染みがない印象である。

副 会 長：会長の指摘のとおり，漢字表記の場合，意味が限定される印象は受ける。

事 務 局：「めぐる」については漢字の意味も含めて確認の上，対応させていただく。

中西会長：第１章～第２章にかけては，まず地球温暖化に関する基礎的な知識が解説されており，その上で，国分寺市の温室効果ガス排出量などの現況がどうかという流れであり，勉強になる内容が記載できていると感じる。

六車委員：気候変動による影響の将来予測（４頁）について，「SSP-5-8.5シナリオ」が急に出てきていて分かりづらい。単純に注釈を細かく記載するよりも，図で簡潔に分かりやすく説明できるとよい。

中西会長：将来予測はシナリオが複数あるということをまずは説明する必要があるだろう。地球温暖化関連の書籍等では，将来予測のシナリオとどんなことが起こるかは基本的にセットで説明されているため，本計画でも補足説明が必要である。

事 務 局：ご意見を踏まえて，シナリオに関する補足説明を検討・追記する。

野澤委員：SDGｓとの関係（29頁）について，目標13に「緩和策と適応策の両面から，温室効果ガスの削減に取り組みます」とあるが，適応策は排出量削減にはつながらないため，書き分けが必要だろう。適応策にはまちづくりの要素があるため，どちらかというと目標11

に振り分けた方が良いのではないか。

中西会長：目標13に関しては，例えば，緩和策により温室効果ガス削減に取り組み，さらに適応策に取り組むといった書き方が考えられる。また，適応策には緑を増やすといったまちづくりに含まれる要素があるため，目標11で適応策についても触れてもよいだろう。事務局には書き方の検討をお願いしたい。

大友委員：26頁に計画の位置付けの図が記載されている。市域版計画には，区域施策編と地域気候変動適応計画と記載があるが，市役所版は事務事業編のみである。市役所版も地域気候変動適応計画として位置付ける必要はないのか。来庁者の熱中症対策など，市役所として実施する必要があると感じた。

事 務 局：市役所版計画については，市の事務事業を対象とした計画である。地域気候変動適応計画は気候変動適応法に基づく，市域全体を対象とした計画であるため，市役所版計画に位置付けるのは馴染まないと考えている。

大友委員：49頁に「ウォーカブル」という言葉が出てくるが歩行者天国のようなものか。

事 務 局：歩行者天国に限らず，車を使わなくても移動できるようなまちづくりをイメージしている。

大友委員：今は人が歩けるところと車が走るところは分かれているが，どう違うのか。

和田委員：下北沢などの事例があるが，ウォーカブルは商業地域を歩きやすくして，歩くことで健康になるような魅力的な街並みを形成していこうという考え方である。例えば，歩道が拡幅できるなら拡幅する，歩道沿いに並木をつくる，歩道に接する商業施設にポケットパークをつくるといった取組を通じて，歩いて楽しいまちをつくること含めて都市計画の分野でウォーカブルと呼んでいる。

事 務 局：市としてウォーカブルをどう実現できるかはまだ研究中である。イベントで人を集められるような空間づくりや道路の活用など，まちの魅力を向上につなげていきたいと考えている。ウォーカブルは資料編の用語解説に説明を記載する。

大友委員：いくつか施策や取組の提案がある。「施策５－２環境負荷をかけない移動手段の促進」（50頁）の主な取組として３つ記載されているが，「使用されていない公用車のカーシェアへの活用」はできないか。テレビで事例紹介されているのを見て，国分寺市でも実施できるのではないかと感じた。また，「オール国分寺で取り組む脱炭素型スタイル」（57頁以降）では，市民編の買い物や出かけるときに「なるべく徒歩や自転車で出かける」，環境学習・環境活動などに「庭やベランダなどで植物を育てる」，気候変動への適応に「危険な外来生物に関する情報を収集する」，事業所編の働き方に「なるべく階段を使う」を追加してはどうか。また，事業所編のOA機器類については，誤字があるため修正されたい。そのほか，事業所の建設・改修時の取組に「廃棄物のリサイクルに努める」の追加を検討いただきたい。

中西会長：具体的な取組の追加提案があったが事務局としていかがか。納得のいく提案が多かったように思う。

事 務 局：「オール国分寺で取り組む脱炭素型スタイル」に関しては，54頁で国が推進しているデコ活を紹介しており，55頁以降はデコ活の図と重複していない取組を掲載しているが，ご意見を踏まえて検討する。

中西会長：計画書を見るときにイラストだけを見る人，一覧表だけを見る人がそれぞれいるだろ

う。内容が重複してもよいので，両方に掲載しておいてもよいだろう。

六車委員：家の中でできる省エネの取組（55頁）について，こたつはどれくらいの使用頻度があるのか。新築住宅には床暖房が入ることが多いため，床暖房の省エネ対策についても情報が掲載できるとよい。

事 務 局：適切なデータがあれば，床暖房の省エネ対策について追加させていただく。

竹内委員：同じく58頁以降の事業所編に関して，市民編と同様に事業所における取組の省エネ効果を数値で示した方がより参考になると思うが，出典がないということか。

事 務 局：事業所の規模感は様々であるため，省エネ効果等を示すことには難しい部分があり，今のところ出典にふさわしい資料は入手できていない。改めて調べてみる。

竹内委員：国分寺市の特性として，75％以上が10人未満の事業所であるということに焦点を当てて，取組とその効果を紹介できるとよいと感じた。

和田委員：計画名称と関わってくるが，「市域」という言葉でどれくらい市民に理解してもらえるか。市民に向けた計画であれば，例えば市民用と計画名称に明記してもよいと思う。案として「国分寺市ゼロカーボン推進計画」などが挙げられているが，計画本文では「市域」がよく出てくる。使い慣れている市民は少ないと思うがどうか。

中西会長：計画名称についても本日は委員の皆さんの意見を伺いたいと考えていた。「市域版」という用語は計画名称としてどうか。現状は市役所版に対応した形で市域版と呼んでいるが，例えばゼロカーボン推進計画といった計画名称とした場合に，市域版とつけるのか，また市域版と付けた場合に市民に伝わるか。

大野副会長：市域版と聞くと，国分寺市内でカウントできる温室効果ガスを対象としているイメージだが，市民の視点では，国分寺市の緑は少ないが，代わりに吸収源として他地域の緑のためにお金を使うといったことを推奨するイメージを持ちづらい。市域よりは市民版の方が国分寺の中だけではなく，日本全体のことを考えて行動しようということが伝わるように思う。

中西会長：「市域版」は国の方針等で決まっている用語なのか。

事 務 局：国においては，地方公共団体実行計画を区域施策編と事務事業編と区別している。国分寺市ではこれまですでに計画を策定している市役所版との区別で，市域版と呼称してきたが，事務局としては計画名称に必須とは考えていない。

中西会長：縛りがないのであれば，計画名称を含めてご意見を伺いたい。今回計画名称(案)が４つ記載されているが，どれがよいか，またより良い案があればご意見いただきたい。

和田委員：「STOP！地球温暖化 エコぶんじ推進計画」はキャッチーでよいと思うが，「エコぶんじ」の説明を計画に記載する必要が出てくる点が気にかかる。

事 務 局：こちらで挙げた案ではあるが，最初のページに地球温暖化の時代は終わり，地球沸騰化といわれる時代が到来したと記載している。そのため，地球温暖化の言葉を使うかどうか検討が必要と考える。

竹内委員：市民や事業所の行動計画として，適切な計画名称かどうかが重要ではないか。地球温暖化や気候変動は地球のためにという印象を受ける。自分のまちのためという要素を入れた方が市民にとっては距離が近く感じるのではないか。あまり壮大な話に感じてしまうとなぜ国分寺でやるのかという話になってしまう。また，エコぶんじはキャッチーでよいとは思うが，隣接する小平市の計画はエコダイラであるため重複感がある。

益子委員：子どもたちの未来のために，住みたい未来の国分寺をベースとした計画にした方がよい。

三浦委員：基本理念でも国分寺として取り組んでいくことが示されているため，計画名称も国分寺を向いた方がよいだろう。今後パブリック・コメントを実施することを考慮すると，市民に関心を持ってもらうため，計画名称とサブタイトルを組み合わせることを考えてもよいのではないか。計画の概要版も作成すると思うが，どうやって市民を惹きつけていくかという点について，この場で議論できるとよい。

中西会長：計画名称にサブタイトルを付けることはよい提案だと思う。

大野副会長：国分寺目線で考えると，結局は市域の中だけでなく全てがつながっている大きな社会のシステムの中での取組ではあるが，自分が暮らしの中でできることは何か，自分の意識を変えて行動することが重要といったことは強調してもらいたい。

中西会長：第１章では世界や国の動向も紹介しているため，地球温暖化や気候変動が世界全体の問題であることは理解してもらえるだろう。引き続き，具体的な案を出しながら計画名称の方向性について議論していきたい。具体的な計画名称の案についていかがか。

六車委員：子どもは大事な点に思う。将来のことを考えて今計画があるということが分かるとよい。

中西会長：概念も必要だが，具体的に言葉にしてほしい。例えばゼロカーボンという言葉を使うかどうか，戦略とするか推進計画とするかといったことはどうか。

和田委員：何に対しての計画かと考えると，やはり未来に向けての計画。「今後の」，「未来に向けて」といった表現があると，未来に向けて自分たちが何をすべきか知る計画といったことが伝わるのではないか。

益子委員：国分寺市はゼロカーボンシティ宣言をしているため，計画名称にも「ゼロカーボン」という言葉は使った方がよいと思う。「未来」に関してはサブタイトルでもよいのではないか。

中西委員：ゼロカーボンという言葉を入れることは賛同いただけるか。戦略か推進計画をつけることはいかが。ビジョンでは概念的な印象になる。

和田委員：アクションを起こすという意味合いで，推進計画よりも行動計画の方が適しているように思う。

六車委員：「国分寺市ゼロカーボンシティ行動計画～未来の子供たちのために～」といった形ではどうか。

竹内委員：未来は良い言葉で子どももそのとおりだと思うが，今は子どもを持たない生き方の人々もいる。次の世代のために，未来志向の考え方自体はよいと思うが，タイトルとして最初に持ってくることが適しているかは疑問に思う。計画名称は全ての人に向けたものであるため，表現は慎重に考えた方がよい。

野澤委員：気候変動や地球温暖化は現在も起こっている問題。そういう点では，未来という表現にもリスクがあるように思う。現在の問題であるという視点も計画名称に入れていただきたい。また，１頁の生態系への影響に誤字があるため修正されたい。

和田委員：求められているのは，今行動することであり，行動するのは未来のためでもある。今，あなた＝市民が何を行動すべきか，ということが計画名称からわかればよいのではないか。

中西会長：未来のために今何をすべきか，という視点については，皆さんの共通認識だと思う。休憩後も議論を続けたい。

（休憩）

大野副会長：未来の子どもたちという意見が出たが，自分自身も子どもたちの未来について考えることがよくある。そのため，未来の子どもたちのことを考えて行動しましょうといった要素はサブタイトルに入れたい。

中西会長：子どもという言葉を入れるかどうか。「未来の国分寺市に向けて」といったことでもよいのではないか。人間だけでなく国分寺には生態系や動植物があり，その中で人間の生活がある。未来に向けて，未来の世代に向けてといったワードでよいのではないか。

六車委員：子どもという言葉を使うと，結婚していない人にはどうでもよいといった印象になってしまうのかもしれない。今の生きている人にも必要な計画であることをアピールする必要がある。今を生きる私たちのためにという要素があってもよいのではないか。

巻田委員：サブタイトルをつける場合，国分寺全体のことという視点から，オール国分寺の未来のためにといった表現でもよいのではないか。子どもも大人も高齢者も事業者もみんな対象になる。

中西会長：「未来に向けて今私たちがオール国分寺ですべきこと」といったニュアンスがよいのではないか。

益子委員：環境基本計画のアンケートでは，未来×自分といった表現があったと思う。自分事という意味で掛け合わせで表現してもいいのではないか。

中西会長：「じぶん×未来×ぶんじ」は補足説明が必要になる。イベントやワークショップのタイトルとしてはよいと思うが，計画名称としてはもう少しわかりやすい方がよいのではないか。

和田委員：サブタイトルについて議論しているが，計画名称はどうするのか。

中西会長：そこもまだ決まっていないため，順番にご意見をいただきたい。

竹内委員：未来は理念としてはあるべきが，行動計画として今取り組んでほしいことに主眼を置くのであれば，計画名称はもっと今に集約するような表現でもよいのではないか。個人的には省エネ対策が家計のオトクにもつながるという点が，今回の計画でとてもよいと考えており，そういったことに焦点を当て，未来志向ではあるが今行動しやすい計画にしてはどうか。

中西会長：現状，基本理念にはあまり未来のことは記載されていない。例えば26頁の計画の目的にもう少し未来志向の表現を入れてはどうか。その上で本計画は今まさに取り組むことだということがわかるサブタイトルが望ましいのではないか。

和田委員：本計画は2050年にゼロカーボンシティにすることを目指していることが大前提にあるため，未来についてはわざわざ書いていないものと解釈していた。

中西会長：ここまでの議論を通じて，もちろん2050年が目標ではあるが，国分寺で未来も生きていけるようにといったことを計画に記載する必要があるのではないかという印象を受けたがどうか。計画のビジョンがあってもよいのではないか。

三浦委員：「はじめに」に首長から計画策定の主旨などが記載されると思うが，そこで未来に向けた計画であるといった内容を書き込めば計画としてうまくまとまるのではないか。

和田委員：前回審議会資料には，基本理念と各主体の役割が記載されていたが，この基本理念は

計画には書かれていないのか。施策の展開の基本理念という形で掲載されており，計画全体の基本理念ではないように見える。本計画の理念を，もっと計画の最初の方で表現しておいた方がよいのかもしれないと感じた。

六車委員：28頁では，計画の実施主体に関する記述が２行で終わっている。計画の推進体制（53頁）のように実施主体による連携・協働を示す図を28頁にも入れた方がよいのではないか。

事 務 局：当初は第３章の計画の実施主体（26頁）にも図を掲載する方向で考えていたが，ページの割り振りの関係で収まりが悪くなってしまったため割愛している。

中西会長：同じ図でも重要であれば何回も出てきてもよいだろう。議論を戻すが，基本理念を計画自体の理念として前段に持ってきてはどうかという意見があった。また，今取り組むための行動計画であるといったことは，計画冒頭の「はじめに」でカバーするという意見が出たがいかがか。

竹内委員：今起きている問題だということを自覚しなければいけない。当初地球温暖化問題が出てきたときは100年後くらい話だったが，2050年は27年後だと今生きている人たちもまだ存命している。遠い未来の話ではなく，現実の延長線上にある未来の話であることをしっかり示す必要がある。

中西会長：延長上に今の子どもたちの未来がある。その部分を伝えるには「はじめに」の記述が非常に重要となる。

野澤委員：子どもはもちろん大事だが，より長く生きる人の方が大事なのかという話になってしまう。子どもというワードをどう考えるか。未来を優先したときに今生きている自分の命は軽いのかといった議論が必ず起こる。リスク管理の面からも，存在意義に関わるような表現を副題に盛り込むことには慎重になった方がよい。これまでの議論で計画名称に込めたい考え方は共有できているが，それをどう表現するかは慎重に考えた方がよい。

中西会長：「はじめに」で本計画そのものの目標や理念などについて記載し，計画のサブタイトルは対象が限定的でない表現とする。

大野副会長：シティとつくとまちづくりの要素が大きくなり，自分の家庭のことという部分から離れてしまう印象があるため，ゼロカーボンシティではなくゼロカーボンでよいと思う。

中西会長：推進計画よりも行動計画の方がよいか。

竹内委員：アクションプランという表現もあるが。

大野副会長：カタカナばかりでもわかりづらくなってしまうので，そこは行動計画でよいのではないか。

大友委員：個人的にはゼロカーボンよりも地球温暖化の方がわかりやすいと感じている。そのため，「国分寺市ゼロカーボン行動計画」の副題として，「ストップ地球温暖化」が入るとよいのではないか。未来のためにというのは当たり前のことでもあるので，必要ないかもしれない。子どもという表現に色々と意見が出たが，考え方が多様化している時代であるため，計画名称には子どもは使わない方がよいと思う。「今やらなきゃ！ストップ地球温暖化」といった焦った感じがあった方がよい。

六車委員：「国分寺市ゼロカーボン行動計画～オール国分寺でいま取り組むこと～」といった形ではどうか。子どもとい表現には議論があるかもしれないが，未来に向けた我々の責任と

いう要素は「はじめに」に入れていただきたいと思う。

中西会長：計画名称については，本日の議論を踏まえて事務局で検討いただく。

益子委員：削減目標（30頁）について，2030年度の削減目標は，さらなる高みを目指して60％ではなく，2030年度の削減目標を60％削減とし，2040年度に80％，2050年度に実質ゼロとしてはどうか。2030年度から2050年度の間の目標も設定した方がよいのではないか。

中西会長：削減目標に関しては，前回まで堅実ケース，野心的ケースといった表現をしていたが，今回はそれらの表現は使っていないものの，堅実ケースを想定して2030年度に50％削減，野心的ケースを想定してのさらなる高みを目指して60％を掲げている。目標設定の仕方についていかがか。

事 務 局：削減目標に関しては，60％削減についても庁内で検討を行ったが，現実的な問題としてかなりハードルが高い。また，他自治体と比べても50％削減はかなり高い目標設定となるため，今回2030年度に50％削減を目標に掲げている。また，本計画の期間が2030年度までであるため，具体的な数値を伴う削減目標は2030年度に設定している。その先の目標は計画の改定の際に検討するものと考えている。

三浦委員：今回の計画が行動計画であれば，削減目標50％を達成するために何を実行するのかということでまとまっているという印象を受けた。

巻田委員：50％削減でもかなりハードルが高い印象である。2050年に向けて，まずは2030年度に50％削減を目指すということでよいのではないか。

中西会長：推進計画であればより高みを目指した目標もあり得るがどうか。

大野副会長：削減目標からは国分寺市だけが取り組むような印象を受ける。数字だけの話ではなく，市民も取り組まないといけない厳しい目標だということを表現しておく必要があるのではないか。

益子委員：50％削減も厳しいということは，実質ゼロは無理という話なのかと市民としては感じてしまう。達成できるシナリオを描いている自治体もある。50％削減が難しいとなると，市としてやる気がないのかという風に見えてしまう。ゼロカーボンシティ宣言も実現できないのはないか。

事 務 局：2030年度までは７年間しかない。その間にどれだけの対策ができるかという部分もある。市の予算を全てゼロカーボン実現に投じることができればよいが，国分寺市は住宅都市であり，福祉など予算が必要な分野は多数あるため，ゼロカーボンの予算確保も簡単ではない。削減目標を設定するということは，行政として責任を持って取り組んでいくということになる。最初から高い目標設定をするのではなく，まずは2030年度までの7年間で50％削減を目標にしたいと考える。

中西会長：削減目標については，市民目線ではもっと上を目指してほしいという気持ちだが，庁内で各種検討した結果，現実的には50％で落ち着くのではないか。

和田委員：さらなる高みを目指すという部分が誤解を生むのではないか。そもそも市だけが頑張って50％削減する訳ではない。責任を押し付けるような表現には気を付ける必要があるが，市民・事業者がさらに頑張ったら60％削減できるかもしれない，実施主体が市民・事業者であるということを表現する必要があるのではないか。

事 務 局：市も50％削減やさらなる高みを目指して一緒に取り組んでいくという意味合いはある。

中西会長：さらなる高みを目指しての部分は本日の議論を反映した表現に修正できるか。
和田委員：さらなる高みを誰が目指すということだろう。
六車委員：誰が目指すという点で，計画の実施主体が重要になってくる。
中西会長：オール国分寺で，みんなで取り組むということは削減目標の前提になるだろう。
六車委員：進捗管理の指標について，例えば「市民1人1日当たりのごみ排出量」（46頁）は，2030年の目標が現状値よりも悪い値となっているが何故か。
事 務 局：注釈に記載しているが，現在，関連計画が改定中のため，現行計画の数値を記載している。計画の改定と合わせて更新する予定である。
荒井委員：緑被地面積の図（18頁）のデータが2008年と古いが，最新データに更新する予定はあるか。
事 務 局：国分寺市が独自に緑被地調査を実施したのは2008年までであり，それ以降は調査を実施していないため，2008年のデータを掲載している。2008年以降の市内の緑地については，東京都によるみどり率調査により把握している。
中西委員：パブリック・コメントはいつ頃実施するのか。
事 務 局：パブリック・コメントは12月の半ば頃を予定している。内部での計画決定を11月頃に予定している。
六車委員：56頁に脱炭素型ライフスタイルを全世帯で実施した場合の試算が18.7％削減とあるが，これは第４章の削減目標と整合性はあるのか。
事 務 局：56頁に掲載している家庭部門の削減効果は，あくまでデコ活で紹介されている一部の取組を全世帯で実施した場合の試算結果である。第４章の削減目標の一部であり，取組の目安として紹介しているものである。
六車委員：先程行政として予算確保が難しいという話が出たが，どの施策は既に予算が確保できているといったことはわかるのか。
事 務 局：市の予算は単年度ごとに議会で決定しているため，本計画で示すことは難しい。計画に施策の位置付けがあることで予算化しやすくなるとご理解いただきたい。
中西会長：行動計画があるじゃないかと市民から声を上げることで行政も動きやすくなる。そのための行動計画でもある。

３．事務連絡

事 務 局：次回は12月20日（水）にリオンホールにて開催予定である。議事の内容は，次期環境基本計画と市役所版計画を予定している。また，開催通知を送付させていただく。

４．閉会

中西会長：令和５年度第４回国分寺市環境審議会を閉会する。

（仮称）地球温暖化防止行動計画（市域版）［国分寺市ゼロカーボン行動計画］についての第4回環境審議会後ご意見

No.	区分	ご意見
1	目標・施策	2030年温室効果ガス削減の目標値を50%から60%削減に変更してほしい。9月末にIEA（国際エネルギー機関）のロードマップ最新版でも先進国は2035年までに80%削減と見直しもされている。先日、産業技術研究所の先生に国分寺市として省エネ普及・再エネ普及で排出量を2013年度比で2030年までに68%削減可能という話を聞いた。2040年91% 2050年100%削減が今の技術で可能ということだった。 〇（費用について）大半は光熱費削減により元が取れる。補助金がなくても設備投資したほうが得。断熱改修以外は元が取れる。断熱の改修は都や国の補助金を利用できることを市民に案内する。 〇国分寺市のCO2排出割合56%が購入電力なので、購入電力を再生可能エネルギーにすれば大幅に削減可能。 〇冷蔵庫・エアコン・TV等25年前のものを使用していた人が買い替えたら25%削減できる。 〇市民の皆さんにも意識してゼロカーボン実現に向けて意識を高めて行動していただくためにも専門機関設置をして市民の方に対策のアドバイスをしてほしい。 近隣の自治体で60%目標にしている地域は少ないとのことだったが、だからこそ目標は高くチャレンジしている街として注目・評価されるのではないか。注目されることで市民の方も市が真剣に取り組んでいる気候変動対策に関心を持ち、電化製品・車・住宅等検討されている方に少しでも削減できる選択をして購入して頂けるきっかけになるのではないかと思う。
2	施策	ゼロカーボンシティ実現に向けたエネルギーの導入としては，再生可能エネルギーや電力と併せ都市ガス等も含めたエネルギー全体として脱炭素化を目指すべきと考える。 自然災害時には，太陽光発電による再生可能エネルギーでの電力確保が期待できないケースもあり，安定供給が期待できる都市ガス等による設備の導入を併せて備える事が重要と考える。 近い将来は再生可能エネルギーと併せてメタネーション技術の導入を積極的に推進し、カーボンニュートラル化することがゼロカーボンに貢献できると考える。